

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2471300331
法人名	株式会社 センチュリークリエイティブ
事業所名	グループホーム あみーご奈垣
所在地 (電話番号)	名張市奈垣字掛田1422-5 (電話) 0595-68-6548

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 6 日(火)

【情報提供票より】 (H19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.05人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2			名
要介護3	5 名	要介護4			2 名
要介護5	名	要支援2			名
年齢	平均 81.6 歳	最低 69 歳		最高 98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福西胃腸科外科、メンタルクリニック名張、アップル歯科クリニック 入所施設: 医療法人福慈会、介護老人保健施設ふくにし
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は名張市の市街地からは車で約15分で周囲は山、川、田畑と緑が一杯の自然豊かな山間にあり静かで落ち着いた環境であるが、地域密着型サービスの住み慣れた地域での生活の場所としての立地はあまり良くないが、法人の別荘だったログハウスを改装され、内部はすべて木造づくりでバリアフリー化されている。吹き抜けの高い天井からはほどよい明るさが差し込むのと一緒に、少し窓を開ければ谷間の美味しくて柔らかい風が自然に入る居間、台所・リビング共きれいに装飾され、居室での生活は高級感のある別荘をライフしているような、リッチな気分になれる。利用者支援については、『人権の尊重、自立の支援、心を癒す』をモットーに掲げ、拘束せず開放的で明るい家庭的な雰囲気を感じられ、職員の笑顔と利用者の安心して生活している様子が印象に残る事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で数件の改善課題があったが、ほとんど改善の取り組みがなされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	本年度に多数の職員異動があり、管理者のみの取り組みとなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議自体設置されていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、管理者・職員が随時の面会時や年2回の家族会の際に時間を設け、又、来所頂けない方には電話等で話を聞く機会をつくっているが、事業運営の反映までには至っていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地理的に集落の民家とは少し離れているが、自治会に加入し地域の行事(お寺での餅まき、地域の新年会等)への参加や、事業所の行事で夏祭りには地域住民の参加、市内のボランティアの受け入れ、地元農家から農作物の購入等、又、最近事業所の隣に2軒の民家が建ち、近隣の住民との交流の機会をもうけている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、『人権の尊重、自立の支援、心を癒す』という従来の3つを踏襲され、認知症の利用者個人々人を理解、認識したうえで職員が利用者一人ひとりの人間として尊厳を持つように接しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容が欠けている。	○	現状の理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念にすることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員リーダーから、毎月1回開催の職員会議で理念とその実践についての話し合いの場を設けながら、管理者、職員共理念を理解し、ケアと業務の改善に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地理的に集落の民家とは少し離れているが、事業所として自治会に加入し地域の行事(地域の新年会、お寺での餅まき等)への参加や、事業所の行事で夏祭りには地域住民の参加、市内のボランティアの受け入れ、地域の農家から農産物の購入等、又、最近事業所の隣に2軒の民家が建ち、近隣の住民との交流の機会をもうけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しているが、職員は理解されていない、又、前回の評価時の改善事項の取り組みは出来ていない。	○	評価は運営者、管理者、全職員の職場全体で取り組みし、評価を活かして、利用者及び家族の安心と満足が頂けるよう取り組みをされたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が未設置である。	○	運営推進会議の必要性をよく理解されているので、早期に設置し開催することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折にふれ市担当者の事業所への訪問、市の事業者連絡会の参加、市の介護保険担当者の訪問等情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理については年2回の家族会と、家族の面会時、個々のお誕生会等に報告、心身の状態に変化があった場合や通院の結果等は、その都度来所頂くか電話等で報告している。	○	利用者の暮らしぶりや管理者・職員の異動等は、定期的に機関紙の発行等でお知らせすることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時の面会時や年2回の家族会の際に時間を設け、又、来所頂けない家族には電話等で話を聞く機会を設けているが、事業運営の反映までには至っていない。	○	家族等に気軽に意見が聞けるよう、意見箱を置いたり、運営推進会議を早期に立ち上げる等、外部者にも意見を言える機会をつくることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年5月に新たな事業所の開設に伴い、当事業所の管理者と職員の大幅な異動があったが、異動前勤務していた新事業所の職員に交流行事などで出会えるようにしている。	○	今後も二つのホームの交流(異動)を行う考えであるが、サービスの質の確保の核心のひとつは、利用者との馴染みの関係づくりにあるので、異動は極力控え、異動の場合は異動後の引継等での配慮を希望する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	5月の人事異動に伴う新たな職員の配置により、新たな職員に対し異動にならなかった職員で、日常の業務の基礎的な研修を行っている。既存の職員には認知症介護について外部研修に参加させ、今後も内部、外部での研修への参加を積極的に勧めていく予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の集いや交流会に参加し利用者サービスの質の向上に努めている。	○	地域内の他のグループホームとの交流の機会を増やすことにより、事業者同士が協働して、さらに利用者サービスの質の向上に努力してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や利用者、事業所の場の雰囲気に馴染めるよう、半日程度の日帰り体験を繰り返しながら、事業所の雰囲気に馴れて頂けるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	身体的、精神的状況を観察し、利用者のできること(居室の掃除、洗濯物のたたみ、食事の後片付け、お茶入れ、花壇の手入れ等)は何でも職員と一緒にしている。又、利用者から戦争体験の話や家庭の悩み相談などを話してもらうなどして、喜怒哀楽を共に出来るよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々生活の会話のなかで、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、若干意思疎通が困難な方には家族から情報を得て、職員からの押し付けの支援にならないように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	非常勤の介護支援専門員主体で作成している。	○	利用者の生活歴や居宅での心身の状況等を勘案し、担当する職員の意見、利用者、家族、その他関係する者と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成し、利用者又は家族の同意を得ることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録や職員の口頭による意見により、非常勤の介護支援専門員主体で見直し、新たな計画を作成している。	○	利用者の心身変化時はもちろん、利用者や家族等からの新たな要望や状況変化が見られない場合でも、一定期間(1~3ヶ月)の定期的な見直しを、介護記録と利用者、家族、その他関係する者の意見を反映した見直しの介護計画を作成し、利用者又は家族の同意を得ることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じ、通院、外泊(盆・正月)、美容院、日帰り旅行(温泉、花見等)、外食等の外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所の協力医療機関への通院(受診)を説明している。利用者や家族の希望があれば希望の医療機関への通院(受診)も行っている。又、利用者や家族の希望により訪問看護が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意思確認と、主治医の診断や助言に基づき、協力医療機関等の協力を得ながら、事業所として可能な限り終末ケアを行うこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守り、人格を否定するような言動をしないよう教育し実践している。利用者の個人情報2階の事務所で管理し、閲覧は事業所内に限定している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、利用者の体調、気分、希望などを職員が聞き感じて、本人のペースを大切にした余裕のある起床時間、お買い物、入浴時間等個々のペースに合った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き献立に組み入れて、事業所で提供していない生ものは外出時に食べることが出来るようにしている。本年5月より調理は法人の他の施設で行っているため、食後の後片付けやおやつ作りを職員と一緒にやっているが、職員の食事は別の場所となっている。	○	食事が楽しみなものになるよう、献立、食材の買い物、調理、配膳、食事、後片付け等は職員と一緒におしゃべりしながら楽しく行われるようにすることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴、足浴(寝る前)を週3回ずつ、出来る限り利用者の希望の時間に日替わりで行い、夜間の入浴の希望があれば対応するように支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の生活歴、入居後の生活の様子や利用者の希望等から、得意で出来そうな事をお願いし、それぞれの役割を持って生活できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の地理的条件から、日常的に買い物等には出かけられないが、利用者の希望により時々市内のショッピングセンターへ衣服等の買い物や好きな外食店に出かけている。又、事業所周辺の散歩や庭の手入れ、他の事業所への交流訪問など外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	セキュリティを利用して、建物から出入りすれば利用者の所在が確認できるようにし、鍵は夜間等最小限とし、居室及び玄関から危険のない限り自由に出入りできるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本年度は避難訓練等の災害に対する対策は行われていない。	○	非常時(火災、地震等)に備え、利用者が安全に避難できるよう市の消防署や地元の協力を得て、避難訓練等を実施することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた食事(ふつう食、刻み食、ミキサー食等)、水分補給(お茶、とろみ付け、ゼリー状等)など食事量や栄養バランス、水分確保を工夫しながら提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス特有の吹き抜けの高い天井からほどよい明るさが差し込むのと一緒に、少し窓を開ければこころよい爽やかな風が入る居間、使いごごちのいいテーブルと椅子、カラオケがセット出来る大型のテレビ、居間では高級感のある別荘をライブしているような、リッチな気分になれるよう様工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具(タンスや椅子等)、お気に入りの衣類や額、テレビ等の持ち込み、又、お好みの飾り付け、必要な方には居室内に簡易トイレを設置する等、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。		